

医学情報とリポジトリ と時々博論

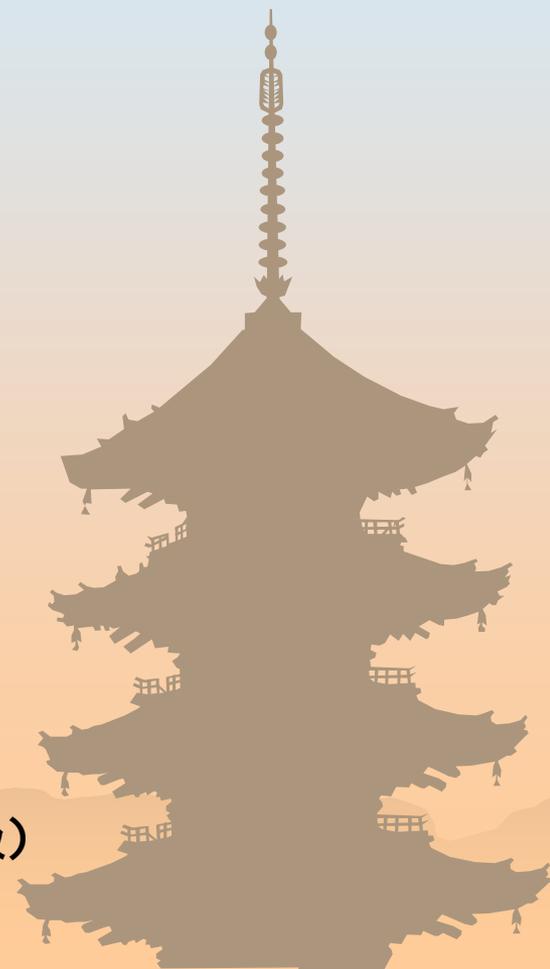
DRF10

事例報告資料

2013.10.29

奈良県立医科大学附属図書館
和田崇

JMLAヘルスサイエンス情報専門員（中級）





自己紹介に代えて



奈良県立医科大学機関リポジトリ

「GINMU」(<http://ginmu.naramed-u.ac.jp/>)

Global Institutional repository of Nara Medical University

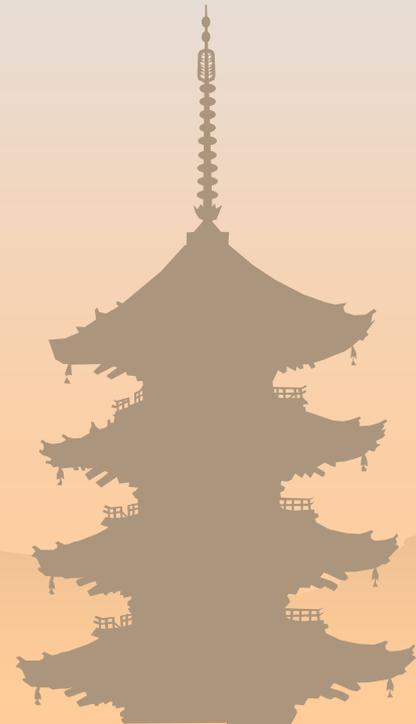
読み名は「ギンム」ではなく「ジンム」

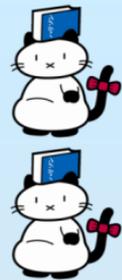
大学所在地の橿原らしく神武天皇から（係長の悲願）

2009年11月正式公開

2010年5月登録件数1000件突破

2013年10月現在約2300件の登録数





現在の状況

- ・ 病院誌・看護研究誌の需要が非常に多い
- ・ ILL受付件数（2012年度）※FAXでの受付は除く
→3045件中1113件(約4割)が病院誌、看護研究誌
- ・ ILL依頼件数（2010年度～2012年度）
→4871件中936件(約2割)が病院誌、看護研究誌



臨床の現場での
実践的な情報



実践に則した情報のため
非常に分かりやすい



共同リポジトリ化へ

- ・ 2013年度の予算で、共同リポジトリ化に対するGOサインが出た
 - まずは**奈良県立**の病院図書室が対象
 - 今後は**県立以外**の病院も対象？
- ・ 自学の附属病院看護研究誌「葦」を収載開始
 - 研究情報を広く頒布することに対しては同意を得られた
 - 院内発表分**のみの掲載となった
 - ※院外発表分は他院での看護師が多く、許諾を得るのが困難なため断念

現在2005年度分から2010年度分まで登録済み
(2005年から過去分も随時遡及入力中)

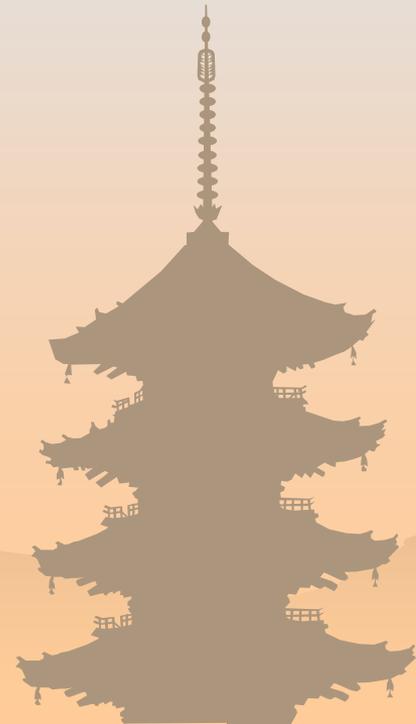


問題点

- ・ 病院誌、看護研究誌には「症例報告」が多くある
 - 文献内で症例となった患者さんのプライバシーが守られていない場合もある
 - 当学でも学生の臨床実習報告を掲載していたが、プライバシー保護の関係で取り下げた経緯がある



医学情報は「情報提供」と共に「情報流出」の危険性もある



今後の課題と展望

前述のとおり病院誌・看護研究誌にある有用な医学情報は必要不可欠

そのための見極めが必要

→ 今後は掲載するための**ガイドライン**を作成（予定）

→ 外科関連学会協議会の症例報告作成に対する指針を参考
(<http://www.jssoc.or.jp/other/info/privacy.html>)

→ さらに専門の研究者の協力も必要になる

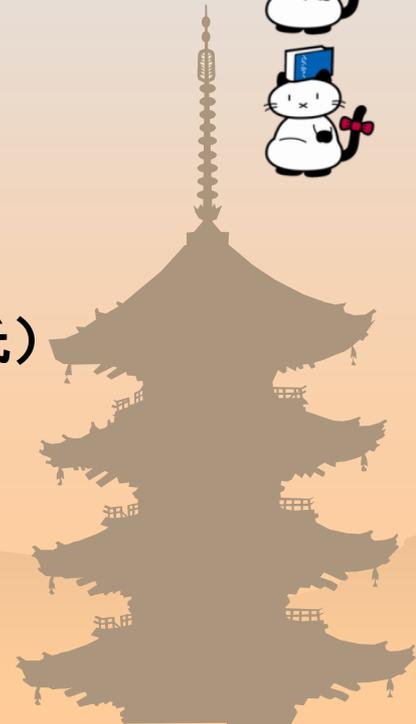
→ 学内での周知活動の充実

医学情報を広く頒布することは、利用者への利便性の向上にもつながるが、何より**患者さん**への**治療**や**看護**に役立てることにつながっていく



学位論文の掲載について

- 一応以前から、学位申請書類の中にリポジトリ掲載への同意書を含めていた（任意提出）
- 今回の義務化で「同意書」から「伺い書」（「やむを得ない事由」があるかどうかの確認書）に変更（必須提出に変更）
- 学位申請の説明会（授与式）に図書館スタッフが同席
- 医局対象の機関リポジトリ説明会の実施（3回実施）
- 過去に登録した学位論文の審査要旨を登録（手塚治虫氏）
- 今の所、原稿本文（著者最終稿）の回収率100%





ご清聴
有難うございました。